

パネリストの紹介 (アイウエオ順)

橘川 武郎



日本学術会連携会員
一橋大学大学院
商学研究科教授
1951 年生まれ
和歌山県出身

現代日本経営史
エネルギー産業論

佐野 正博



日本学術会連携会員
明治大学経営学部教授
1954 年生まれ
富山県出身

経営技術論
現代技術史

高津 隆



帝国データバンク
史料館 館長
1950 年生まれ
山口県出身

田口 直樹



大阪市立大学大学院
・経営学研究科教授
1968 年生まれ
岐阜県出身

産業技術論
技術史

米倉 誠一郎



一橋大学イノベーション
研究センター 教授
1953 年生まれ
東京出身

イノベーションを核とし
た企業の経営戦略と史的
研究

日本学術会議 マスタープラン 2014 学術大型研究計画 [計画番号 8 学術領域番号 5-1]

日本におけるイノベーションの歴史的展開に関わる史資料の体系的収集と電子化によるアーカイブの構築ならびに国際情報発信のための学術ネットワークの形成

本シンポジウムは、日本学術会議「第 22 期学術の大型研究計画」(マスタープラン 2014)において各学術分野に必須な学術大型研究計画として承認されたプラン実行のための準備的活動の一環として開催するものである。

イノベーションに貢献した企業・団体、個人が保有する製品企画、市場戦略、製品開発・製造などの史資料およびヒアリング情報の収集、それらのデータベース化によるデジタル・アーカイブと学術ネットワークの構築を目標とする。イノベーションに関する学術研究のためには、イノベーションに関わる史資料の散逸防止、史資料の整理・公開方法の整備、史資料収集に不可欠な信頼性のある保存・公開拠点の構築が必要不可欠である。

イノベーションに関わる史資料の総合的・集中的な収集は、イノベーションの歴史展開としての産業文化の保存・研究のための布石となるものである。また、アーカイブ・ネットワーク構築は、イノベーション史関連分野の日本の学術研究のさらなる発展に大きな貢献が期待できるものである。

図版紹介

ジョージ・スチーブンスンの蒸気機関車ロケット号(1829)

エジソンの白熱電球 --- 米国特許 223,898(1880)

19 世紀末のニューヨークの空を埋めつくす電信線(1890)

20 世紀におけるアニメの人気キャラクター「ポパイ」

東海道新幹線(1964)用の新幹線 0 系電車

世界最初のマイクロプロセッサ INTEL4004(1971)および関連チップ

で電子計算機を構成できることを示唆した広告

SONY の初代ウォークマン(1979)

任天堂のファミリーコンピュータ(1983)

モズリーのねじ切り旋盤 (1797 年頃) --- 工作機械の技術革新

19 世紀の転炉 --- 鋼鉄の大量生産のための技術革新

明治時代の富岡製糸場の内部の様子

ファナックの産業用ロボット (アーク溶接作業用ロボット)

18 世紀末における蒸気機関と動力水車のハイブリッド装置

19 世紀前半イギリスにおける蒸気バス(1829)

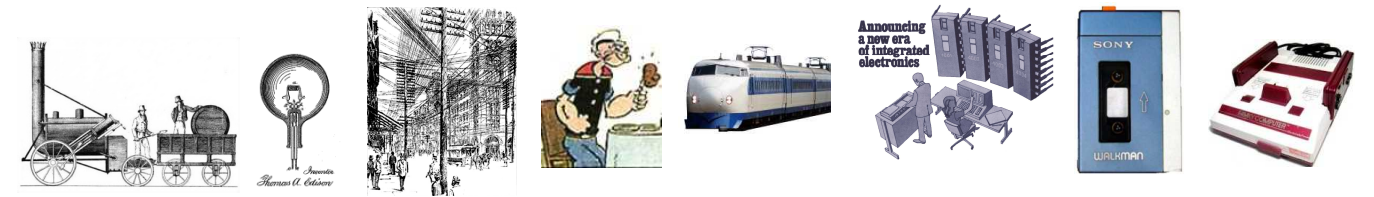
20 世紀初頭の電気自動車の広告 --- Cleanliness の強調

小笠原テクノスーパーライナー(2004)

超音速旅客機コンコルド(1969 年初飛行)

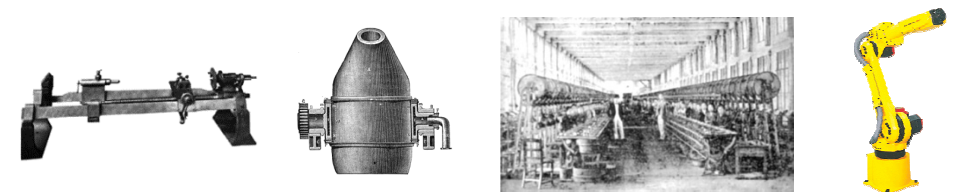
世界初の個人用携帯情報端末:アップルの「ニュートン」(1993)

SONY の最後の DAT ウォークマン TCD-D100(1997)



公開シンポジウム

イノベーションの歴史に学ぶ



2014 年 9 月 27 日(土) 13:00~17:00

明治大学駿河台キャンパス

リバティタワー1階 1011 教室

参加費無料・事前申し込み不要

[どなたでも自由に参加できます]



開催趣旨

日本の科学・技術開発とイノベーション実現の将来構想には、学術面から見て、その構造に問題があることを認識し、解決策を講ずる必要がある。

その学術的な研究を進めるにあたって手立ての一つとして欠かせないのが一次史資料であり、こうした史資料にもとづいて実証的な歴史的研究をおこなうことで、上述の学術面から見た構造的問題の解決の糸口が見出されるであろう。

この点での取り組みの仕方について、イノベーション史に関する、科学史・技術史、経営史・産業史、産業政策、等々の各分野からのアプローチの学術的検討、あるいは先駆的な史資料アーカイブの国内外の取り組みの成果を含め、検討することが考えられる。

本公開シンポジウムは、次の３点を念頭に、科学史技術史関連、経営史関連、ならびに企業資料アーカイブ関係についての報告をおこなう。

- ① 史的研究対象としてのイノベーションに関する共通認識の形成に向けた
多面的視点からの考察・討論
- ② 20～21 世紀の日本におけるイノベーションの歴史に関する
概括的な共通認識の形成に向けての多面的視点からの考察・討論
- ③ 多面的なイノベーションの歴史を学ぶこと、および、
イノベーションの歴史を研究することの意義・重要性

シンポジウムの式次第は右の通りであるが、当日はフロアの意見を聴取し、議論を深めることとする。

プログラム

司 会：兵藤友博（日本学術会議第一部会員、立命館大学経営学部教授）
佐々木聡（明治大学経営学部教授）
総合司会：伊藤直子（明治大学ビジネスイノベーション研究所）

13:00～13:05 開会挨拶

13:05～14:05

第1部「世界と日本における発明・発見・イノベーションの歴史的展開」

- ◇「イノベーション概念の歴史的＝理論的整理」
佐野正博（日本学術会議連携会員、明治大学経営学部教授）
- ◇「技術史から見た戦後日本のイノベーションの展開」
田口直樹（大阪市立大学大学院・経営学研究科教授）

14:20～15:20

第2部「経営発展とイノベーション」

- ◇「経営革命：イノベーション遂行者としての企業家」
米倉誠一郎（一橋大学イノベーション研究センター教授）
- ◇「日本経営史にみるイノベーションと企業競争力」
橘川武郎（日本学術会連携会員、一橋大学商学研究科教授）

15:30～16:00

第3部 「イノベーションと歴史的記録・保存の社会的意義」

- ◇「企業史料とビジネス・アーキビスト」
高津 隆（帝国データバンク史料館・館長）

16:10～16:55 全体討論

16:55～17:00 閉会挨拶

小笠原英司（明治大学大学院長、明治大学経営学部教授）

主 催 日本学術会議史学委員会科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会
共 催 日本学術会議史学委員会
協 賛 日本科学史学会、日本経営史学会
後 援 明治大学ビジネスイノベーション研究所、立命館大学イノベーションマネジメント研究センター